今按式出雲本考異に宇受加諸本（有介加）名神祭（剩本有多加）案當レ訓二有須賀一（今地名神名共用二宇津賀字一）神名帳作宇酒加と見えたる如くウスカと訓むべし

神位 仁明天皇承和九年九月乙巳隱岐國海部郡宇受加命神預官社

今按視聽合記に引たる本國神名帳に從一位予酒賀大明神とあり

祭日 六月十一日

社格 鄕社

所在 宇受賀村（海士郡海士村大字宇受賀）

今按視聽合記に宇津賀村は小山之間人家分れて住り後に宇津賀明神の社あり松山蒼々として風興あり前に花表を立て瑞籬なかし按神名帳海部有受加命社可爲斯神也云々と見え明細帳にも本村としたりかたぐ〱從ふべし

○周吉郡四座（並小）

賀茂那備神社

祭神

今按明細帳に尊號不詳神體内殿に九寸位冠袍坐像一坐古作なり云々と見え又國内神名帳には從四位上賀茂奈比明神とあり

祭日 四月初酉日

社格 村社

所在 賀茂村（周吉郡磯村大字加茂）

今按視聽合記に鴨里は未の方に向ひたる入海の濱也村の東に明神の社あり鴨大明神と號す近頃にや浮圖氏某緣起作けるとぞ云々按明細帳周吉郡有賀茂那備神社必可爲此神也然則此里以之爲名歟と見えたり

水祖神社

祭神

今按本國神名帳には從四位上水祖明神と見えたり

祭日 六月廿五日より廿六日迄

社格 鄕社

所在 八尾村（明細帳に西鄕西町宇天神原とあり）（周吉郡西鄕町大字西鄕西）

玉若酢命神社（稱總社大明神）

祭神 玉若酢命

今按明細帳に相殿大巳貴命又左に男神一座女神一座是を須佐之男命稻田比賣命也と申傳へ右に男神一座女神一座之を事代主命須勢理毘賣命と申傳ふとあり

神位 淸和天皇貞觀十三年閏八月廿九日壬申授隱岐國正六位上蕤若酢神從五位下

今按國内神名帳に正一位玉若酢大明神と見ゆ

祭日 五月五日

社格 縣社

所在 總社村（明細帳に下西村宇宮の前とあり）（周吉郡下西村大字宮ノ前）

今按視聽合記に總社と號して大社あり花表瑞籬拜殿本宮美にして且舊たり四方の松杉皆大にして靈場他に異なり社司を國造と云渠が言に曰天武天皇敕命ありて奉之云々古來傳曰若酢大明神也按神明帳隱州周吉郡有玉若酢命一座乃可爲此神然則所其由來者尙矣云々とあり

和氣能須命神社

祭神

今按國内神名帳に從一位和氣能酒大明神とあり

祭日 三月十七日

社格 村社

所在 下西村（山上）（周吉郡磯村大字下西）

○穩地郡三座（大一座小二座）

天健金草神社

祭神

今按式出雲本考異に案光孝實錄（仁和元年）云天健金草明神（案貞觀十三年明字無自二十三年一至二仁和元年一中間八年不レ載レ預二明神例一）扶桑略記（延喜六年）云天健金草命とあるが如し國内神名帳には正一位天健金草大明神とあり明細帳に尊號不詳社傳には枛津媛大屋津媛の二神を合て健金草神と申傳へたり神體一尺八寸位の老女一坐一尺六寸位の考女一坐各古作なり又七寸位の立像一坐極古く難辨社傳に此を鹽土老翁と云と記載し視聽合記に都萬縣の條下に高田明神と云社を擧て按に穩地郡可有天健金草神祠未知其處豈此神歟健金高田和訓相近訝以何待知人而已と見えたり明細帳社傳の說いかがなれども姑く記して後案を待つ

神位 淸和天皇貞觀十三年閏八月廿九日壬申授隱岐國從五位上天健金草神從四位下仁和元年閏三月十日乙未授隱岐國從四位下天健金草明神從四位上朱雀天皇天慶三年九月四日奉授隱岐國正四位上天健金草神從三位

祭日 三月朔日八月十五日

社格 村社

所在 都萬村（山上）（穩地郡都萬村大字都萬）

水若酢命神社（名神大）

祭神 水若酢命

神位 仁明天皇承和九年九月乙巳隱岐國穩地郡水若酢命預官社

祭日 五月三日

社格 國幣中社

所在 山田村（本地）（穩地郡五箇村大字郡大町）